

学校だより 新潟市立江南小学校

令和5年5月25日



江南の子

令和5年度
第3号

想像力

校長 藤塚 静治

先日、第1回学校運営協議会が開かれました。主な内容等は「CS 通信」に掲載されています。是非、ご一読ください。話し合いのキーワードは「挨拶」でした。ある委員さんの「地域での子どもの挨拶がとてもよい」との感想から、中心話題となりました。発展して、「想像力」も話題になりました。想像力を発揮すると、様々な場面において好ましい状況を生み出すことができるのではないかということでした。それを聞いて、私は、小学生の頃の自分を思い出しました。

小学3年生だったある日のこと。「せいちゃん、今日は誰かと遊ぶの？」と母に聞かれました。約束はなかったのに、「Tさんと遊ぶ」と答えました。遊ぶ相手がいた方がいいのかなと思って答えました。結局、誰とも遊ばずに過ごしました。数日後、母が私を呼びました。「この前、Tさんのお母さんに遊んでもらったお礼を言ったら、今日お会いしたときに遊んでいないそうだと言われた。本当なの？」と質問されました。遊んでいないと打ち明けると、「どうしてそんな嘘をつくの」と強く叱られました。母は涙交じりに伝えるものですから、反省したことを覚えています。

私は、想像力を発揮できていたら、母の最初の質問に対して安易に答えなかったと思います。でも、これは難しいことです。私は、誰と遊んでいるかを伝えれば母は安心するのかなと思っていたのです。しかし、結果として、母がTさんのお母さんにお礼を伝えるとは考えませんでした（恐らく、私のことを考えた行動なのでしょう）。そして、私の母からTさんのお母さんに伝わったことで、Tさん家族において遊んだのかどうかの会話になろうとは思いませんでした。

実際、小学生がここまで想像力を働かせるのは難しいことです。しかも、初めてのことであればなおさらです。だから、起きた出来事をもとに、次回に少しでも想像力が発揮できるように、身近な大人と一緒に想像力を働かせてあげるとよいと思うのです。

冒頭に述べた「挨拶」の詳細です。登校時に、自転車を引いていた面識のない子どもたち2人が、大きな声で「おはようございます」と挨拶をしてきたのだそうです。委員さんは挨拶を返した後、自転車を引いている理由を質問すると、「今日、自転車教室があって、自転車が足りないということだから、学校へ持っていこうと思ったのです」と、きちんと答えたそうです。

この出来事から、委員さんが協議会の場で伝えたくなくなった理由は想像できます。しかし、ひょっとしたら目の前の子どもは、大人と同じように想像できないのかもしれませんが。この出来事を、是非ご家庭で話題にしてみてください。その際に、「挨拶された人はどうして話題にしたくなったのか」一緒に考えてくださると、今後の想像力の発揮につながると思います。好ましい状況を生み出すことができるように、江南小学校の保護者も教職員も、目の前の子どもに寄り添って想像力が働くようにしてみましょ。よい出来事のときも、そうでないときも。

